

性別に悩まされない世界へ

南光小学校 6年 木村 華乃音

私は、性別について、なぜ日本で同性婚が認められていないのか、疑問をもちました。同性の人を好きになったら、周りにおかしいと思われたり反対されたりする。なぜ、自分の意思が認められないことがあるのだろう。そんな疑問をもったのは、Aさんについて知ったことがきっかけです。

私はインターネットで活動しているAさんのことが好きです。そのAさんが、昔自分の性別のことで悩んでいたことを知りました。19歳の時に、「性同一性障害」だと診断されたそうです。Aさんは、FTMでした。FTMというのは、身体は女性だけれど、心は男性で、女性から男性への性別移行を望む方のことです。Aさんは、自分の人生を後悔しないように、手術を受けたいと考えました。でも、19歳のAさんが手術を受けるには、親のサインが必要でした。はじめ、Aさんは家族に内緒でなんとかしようとしていましたが、お母さんに見つかってしまいました。お母さんに納得してもらうことは大変でしたが、Aさんは一生けん命説明をして、同意してもらうことができましたそうです。

1回目の手術から数年後の24歳の時、Aさんはタイに2回目の手術に行きました。タイでは、18種類の性別があると言われているそうです。手術後、Aさんはある人に出会いました。その人は、MTF、つまりAさんとは反対の体は男性で、心が女性の方でした。Aさんは、その人と分かる単語でいろいろな話をして、日本とタイのちがいを実感したそうです。

私は、最近まで、LGBTQという性的マイノリティのことは知りませんでした。周りにそんな風になやんでいる人がいるかもしれないと考えてみたこともありませんでした。でも、Aさんの話を聞いて、この世の中に自分の性別のことでなやんでいる人がいることを知りました。この世の中に、自分の心の性別に正直に生きることができない人がたくさんいることを知りました。みんなとちがうと決めつけられ、認めてもらえずにつらい思いをしている人がいる世の中は、とてもかなしいと思います。だから、Aさんが行ったタイの人たちのように、日本でも自分の心の性別に正直になり、本当の自分自身をおさえたり消してしまったりせず、だれもが自分らしく生きていける世の中になってほしいです。

そのために、みんながお互いに分かり合おうとすること、自分とちがうからといって差別をしないことが大切だと思います。私は、きっと性別になやまされない世の中になると信じて、私自身も、性別に関係なく一人の人として、相手のことを知り、理解し、その人らしさを尊重していきたいと思います。

勇 気

佐用中学校 3年 長谷川 水音

みなさんは、大勢の人の前で話す「勇気」はありますか。

私は、小学生の頃、目立ったことをするのが苦手で、授業などで発表したり、自分の気持ちを友だちに伝えたりすることが苦手でした。それは、「友だちと違う意見だったらどうしよう。」と自分に自信がなかったからです。そんな私が中学2年生のとき、生徒会専門委員長選挙に立候補しました。姉が生徒会役員だったこともあり、生徒会にはもともと興味がありました。しかし、「落選したらどうしよう。」「自分の気持ちが伝わらなかったらどうしよう。」という不安が大きく、最初は立候補するかどうか迷っていました。そんな選挙の前、当時の生徒会長や担任の先生が、「結果がどうであれ、立候補することに意味がある。」ということをお話してくださいました。また、友だちからも、迷っている私に「水音ちゃんなら絶対大丈夫。」と声をかけてもらい、勇気を出して立候補することができました。立会演説会では、声が震え、とても緊張しましたが、全校生徒の前で堂々と演説ができたことがとても嬉しかったです。選挙の結果を翌朝の放送で聞いたとき、私は当選していましたが、落選した友だちのことを考えると素直には喜べませんでした。落選した友だちは、私に「おめでとう。」と言ってくれました。私は、当選したことも嬉しかったけど、仲間であり、ライバルでもある17人と前に立って演説できたことが何よりも嬉しかったし、素晴らしいことだと感じました。

私の友だちが、副生徒会長の選挙に立候補し、落選してしまいました。でも、もう一度挑戦しようと専門委員長選挙に立候補していました。今では、同じ生徒会の一員として一緒に頑張っています。「勇気を出す」ということは本当に難しいと思います。でも、「一度落選したからもう無理」と諦めてしまうのはもったいないし、後悔すると思います。この先、迷うことは数えきれないくらいあると思います。普段から自分の意見がはっきりと伝えられない人はぜひ、チャンスだと思って勇気を出してみてください。そうすれば、今までよりも生活が楽しく、充実すると思います。でも、すぐに自分の意見がみんなに伝えられる人は少ないと思います。「みんなが何も気にすることなく、発言できるようにする。」ということですが、一人ひとりが勇気を出せるかどうかは周りの雰囲気によって変わってくるものだと思います。冒頭でも言ったように、私は、小学生の頃は発表が苦手でした。「間違っていたら友だちに何か言われるのではないか。」と思い、勝手に「間違え」というものに恐怖を感じていました。私は、中学生になって授業などで発表を頑張っています。その中で、もちろん間違えることもたくさんありました。でも、周りの友だちはそれをからかわず、私が正解するまで温かい目で見てくれました。そんな経験があるから、私は今、何も気にせず、人前で堂々と話しているのだと思います。

私が、選挙に立候補しようか迷っていたとき応援してくれた友だちのように、次は私がみんなの背中を押してあげる番です。みんなが自分の意見を言えるような環境をリードして作るのは、私たち生徒会役員の役割ではないでしょうか。自分の気持ちが上手に伝えられない人などが当たり前のように意見できるよう、日々考えています。そして、みんなが相手を思いやりながら自分を信じて行動できる、そんな世の中が世界に広がればいいなと思います。

明るい未来のために。